



今回の小樽ツアーは「小林多喜二」をよりよく知る旅の一つでした。これ迄に何度かこのツアーに参加し、多喜二のご縁の有る場所等を、当時

の時代背景や様々な情報を加味しながら旅システム内山社長が懇切丁寧にガイドされ、時には「私だけしか知らない、取って置きの話」

等と言いながら、「掲示の北斗七星の配置が違う」、「解説文の中に誤字が一つ有りますが、皆さん分かりますか？学者も気が付きませんでしたよ」等と、鼻高々の話しも有り。

奥沢の多喜二墓参も参加者大勢でお参り致しました。険しい坂道を上り、献花などしてご冥福をお祈り致しました。帰りも急な坂道をそろそろと用心しながら降り、バスの待つ道路迄、まるで登山の様な運動量です。参加者全員、無事下山して、バスに乗り込みました。

昼は恒例の海鮮料理の店「嵐山」へ押しかけました。新鮮な魚介類の数々がテーブルに所狭し



海鮮料理 嵐山

と並び、店主からは詳細な料理解説が有りました。すっかりお腹を満たし、最期にデザートアイスでお口直しをして、次の見学場所、小樽文学館に進路を取りました。

今回の多喜二ゆかりの地巡りのテーマは小説「地区の人々」です。「地区」と言う言葉がどんな意味合いを持つの

か内山社長から解説が有り、築港埋め立て工事に集められ、タコ部屋と呼ばれた居住地区に生活する土工を指すのですと。多喜二ゆかりの地巡りも時間がかなりずれ込み、バスに乗りながらの巡回となりましたが、5時前に「多喜二祭、没後90年記念の集い」に合流するために市民センター・マリンホールに到着し、会場の自由席にそれぞれ座り、開演を待ちました。5時から市民構成劇による「地区の人々」一火を継ぐものーが開演され、熱演による素晴らしい演劇を披露されました。



「多喜二祭 没後90年記念のつどい」  
7月14日(金)午後5時開演  
市民構成劇  
「地区の人々」一火を継ぐものー  
記念講演  
多喜二生誕120年・没後90年  
「小樽多喜二と小樽」  
会場 小樽市民センター・マリンホール

最後は小樽商大名誉教授「倉田稔」氏による「小林多喜二と小樽」と言う題目で講演が在り白いスーツ姿のお洒落な装いで面白可笑しく講演されました。有意義な旅となりました。